

大規模地震災害に対応する医療ソーシャルワーカー業務の実際

- KJ法による整理と分析 -

山田赤十字病院 伊藤 隆博(会員番号 007402)

キーワード：医療ソーシャルワーク 災害 KJ法

1. 研究目的

大規模地震災害時には、被災者には同時多発的に様々な生活問題やニーズが発生する。医療機関においては、医療ニーズに対応しつつそれと同時に、緊急治療が終了した後の生活の場の確保や療養先の確保、生活を立て直すための経済的問題など災害医療とともに関連して発生する問題日の対応も必要となる。ソーシャルワーカーの視点から災害をとらえると、社会福祉とは本来、危機的な状況に陥った人々の支援を行うことをその目的としており大規模地震災害時も例外ではない。

本研究では、医療ソーシャルワーカー（以下MSWとする）は大規模地震災害に対していかなる実践を行ったかを検証し分析することにより、MSWの役割と活動の内実、それらを規定する条件の実態を明らかにする。

2. 研究の視点および方法

本研究は、平成21年5月12日～5月17日の期間に新潟県中越地震、能登半島地震、新潟県中越沖地震、岩手宮城内陸地震において、被災者を受け入れた災害拠点病院に所属するMSWに対して、インタビューによる質的調査を実施した。

これらの質的データをもとにKJ法を用い、得られたデータから帰納的に分析を行い、実態を整理する。ミクロレベルの視点ではMSWの援助内容、メゾレベルの視点では災害拠点病院としてMSWに求められることや院内組織を援助にどのように生かすことができたのか、マクロレベルの視点では地域福祉分野とMSWの連携はどのように行われたのかについて、その実態と課題を明らかにしていく。

3. 倫理的配慮

本調査は、日本社会福祉学会「日本社会福祉学会研究倫理指針」に基づき、調査対象者ならびに所属長、病院長に対して事前に文面にて調査の趣旨と内容について説明し、同意を得たうえで調査を行った。調査開始前に研究の趣旨、方法、研究への参加は自由であり、拒否する権利や中途拒否の権利、それにより不利益が生じることがないこと、公表の方法、匿名性と守秘の保証など文書と口頭で説明を行った。

4. 研究結果

大規模地震災害に対する MSW の役割は被災者への生活再建支援であり、その実践は、開拓、調整、相談の 3 領域に分類することができる。開拓領域の実践では、被災者のニーズに応えていくために災地外の地域に連携を拡大し、これまでになかった支援体制を新たに開拓・構築する「被災地外に拡大する連携体制」の構築が行われる。実際、自宅や避難所での生活・療養が困難となり受け入れ先の施設や病院を探す場合、被災地内であれば建物の被害を受けていたり受け入れのキャパシティが一杯であるなどという理由から、被災地外の施設や病院への受け入れを依頼していくこととなる。調整領域の実践では、介護支援専門員や地域包括支援センターのスタッフ、訪問看護師等との連絡やサービスの調整により「日常の連携が生み出す災害時対応」が実践される。それぞれの職種が出来る限り自分の役割を果たすという意識を持っており、MSW との連携も特に入退院に関して非常にスムーズに連携をとることができていた。最後に相談領域では被災者に対する「援助対象者とニーズの拡大への対応」が実施される。人工呼吸器を装着している医療依存度の高い在宅療養患者や独居高齢者、病院へ避難した入院対象外の要介護者、避難所や仮設住宅からの入院患者や地震をきっかけに問題が表面化した被災者などへの相談が中心となる。この 3 領域はバラバラに動くのではなく、それぞれが影響しあい循環している状態を保ちながら実践を前へと進めていく。開拓領域と調整領域の間では援助に必要な情報の収集・提供という面で結びつきが見られる。調整領域と相談領域の間では、臨機応変な支援の提供がなされる。開拓領域と相談領域の間ではニーズに対応する被災地外の社会資源の結びつけを行う。この循環の中で MSW は被災者への生活再建支援の実践を行い、この循環そのものを動かしている。そして、MSW の役割と活動の内実を規定する条件は、「ジレンマをはらんだ病院の期待」と「援助者としてのスタンス」により規定される。組織人として病院の期待に応えていこうとするところでは、専門職としての役割と災害拠点病院としての機能を維持する一病院職員としての MSW への期待との間に矛盾が生まれる。また MSW 自身も被災者であるといった援助者としてのスタンスとの間ではストレスを生んでいるという図式が浮かんでくる。災害ソーシャルワークとはそのような矛盾やストレスをはらみながらもその中で一生懸命になっているソーシャルワーカー像が常にある。

大規模地震災害に対する MSW の役割は日常的な相談業務に加え、被災者のニーズに合わせた臨機応変な支援を行う「生活再建の支援者」という役割である。災害に伴い拡大するニーズや平常時にはないニーズに対して、日常の、或いは新たに開拓した連携体制を駆使しながら生活再建の支援を実践する。しかしその支援は MSW のおかれる環境といった条件面に影響されやすいということも明らかとなった。また、以下のような問題点も見えてきた。1 つ目は、MSW の災害時の位置づけや役割が明確にされていないことである。2 つ目は、自分自身が被災者となった MSW はストレスが非常に大きいものの、人間的な面でも精神的な面でも支援体制ができていないことである。